その先の問題

宮本百合子

青空文庫

どんなひとも、贅沢がいいことだと思っていないし、この数年間のように多数の人々が刻苦して暮しているのに、一部の人ばかりがますます金銭を湯水のようにつかう有様を目撃していれば、いい気持のしないのは自然だと思う。今度の贅沢品禁止が、めずらしい人気で一般に迎えられたのも、この心理に即した面があったからだったと考えられる。贅沢をして暮すことなんかできない人々は、日頃贅沢をしてそれが自分たち人種の優越のしるしでもあるかのように振舞っていた人々が今度の禁止で、バカ贅沢ができなくなったことに一味の清涼を感じたのであった。

若い女のひと、まじめに働いている若い女のひとたちの心持に、今度の禁止が、そりゃそうだわねえ、と同感を生んだのは当然であろう。

だが、しずかに考えてみると、現代の日本らしいその感情も、いろいろに落付いてかみわけられなければならないことがわかってくる。第一は三百円の月収を標準として立てられた物の価の限界が、はたして私たちの現実生活にどんな実際のかかわりをもって作用してくるだろうか。ここに五十円月給をとっている娘さんがあるとして、その娘さんはおそらく決して二十円の草履は買わないだろうと思われる。大奮発で五円の草履を買う。五円の草履は贅沢品ではない実用品だけれど、その五円の草履の実質は、どんなにもちのよいしっかりしたものだろうか。二十円以上の草履をこしらえてはいけなくなったために、草履屋は五円の品物を前よりはましにこしらえるというようなことがあり得るだろうか。上へ上へと吊り上げられて行ったものが、禁止で、下へ下って一般生活の質の向上としてひろがって来るかといえば、どうもそういうことには行かなそうである。やすいもの、皆が買うもの、やっぱりこの価ではこれ位のものか、という状態に止まるらしい。そうだとすると、贅沢品禁止で何となく胸がスーとした感情は、そういう感情を味わったというやがて忘れられてゆく一つの経験にとどまっているだけで、多数の若い女のひとたちの生活は実質的に変ったところはないことになる。わずかに、自分のできない贅沢は、ほかのひともう大ッぴらにはやれなくなったのだ、という淡い快感があるばかりなのである。

自分で働き、自分の汗の価を知っている若い娘さんにとって、この一種の社会的な快感は誇りにも通じるところがあるだろうとも思われる。けれども、本当に聰明な娘たちは、そのぼんやりした快感や裏づけられた誇りに、何か安心ならぬものがひそんでいることを感じとっているにちがいない。

病気しているひとが、ひとも病気になったときいて、気の毒がりながら何となし自分だけではないという気休めを感じることがある。その心理は、無理ないことかもしれないけれども、さらに心の高い人だったらおそらく、それをきいて小さい気休めを感じるより強く深い真心で、それはいけない、一日も早くなおって下さい、というだろうし、その方が人間としてましな態度だということを、誰しも知っていると思う。

贅沢禁止のこととこの場合と全く同じということはできまいが、自分たちばかりではないのだ、という気休めで逆に日々の生活の悪条件に馴れて安心してしまうことがあるとすると、それは社会の本当の進歩のために、悲しむべきことになるだろうと思う。

どんな困難にもたえる力は必要である。贅沢はもとよりいらない

ことである。けれども人類の歴史は常に進歩に向って動いて来ているので、その間に生じる鋭く深刻な矛盾で、当面の生活にどんな障害や停滞や退歩がおこり、生活の低下が生じたとしても、私たちがそれをのりこえてゆく努力の方向は不変に進歩への方角の探究でなくてはならないはずである。どうせ誰だって外米をたべているんだからとすてて考えず、外米をたべることを躊躇しないとともに、その外米は現在の力で求めうる一番正当な価格のものか、外米に不足なヴィタミンBを何で補って健康を保ってゆくかという点をも積極的に考えてゆくべきである。望ましくない事情も、必要とあれば雄々しくたえながらしかしそれをより望ましいものに代えてゆくための努力が忘られてはならないのだと思う。どんな悪条件だっても私は平気だと自己満足に止まる心理は、しっかりとしているようで実はきわめて快い退歩的な態度だと思う。婦人の堅忍な心で難局をしのぐということの真の意味は、最低でも皆そうだからと変にすてて、安心した生活態度をさしているのではないことは明らかなことだと思う。

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集　第十四巻」新日本出版社
1979（昭和54）年7月20日初版発行
1986（昭和61）年3月20日第5刷発行
底本の親本：「宮本百合子全集　第九巻」河出書房
1952（昭和27）年8月発行
初出：不詳
入力：柴田卓治
校正：米田進
2003年5月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

その先の問題

宮本百合子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/